

平成17年12月吉日

各位

株式会社 鶴 弥
代表取締役社長 鶴見 栄

新生産設備「本社工場第2ライン」改修完工のお知らせ

当社がかねてより進めてまいりました、和洋役瓦兼用生産設備「本社工場第2ライン」の改修が無事終了し、この12月に本格稼働する運びとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 本社工場第2ラインの改修を実施した経緯

近年の住宅市場における洋風指向の強まりとともに、粘土瓦市場の需要動向においても、和形瓦（J形瓦）の比率が減少し、洋形瓦（F形瓦・M形瓦）の比率が増加する傾向が続いており、これまで当社は洋形瓦（F形瓦・M形瓦）の内、屋根面積の多くの部分を占める「棧瓦」の生産設備の増強を進めるとともに、屋根の「棧瓦」以外の部分に用いる「役瓦」を、既存工場（労働集約型工場）における生産調整により供給する体制を敷いてまいりましたが、洋形瓦、特にF形瓦の当社の販売シェアが拡大する状況下、「F形棧瓦」のみならず、「F形役瓦」の供給量拡大が必要となってまいりました。

一方、和形瓦（J形瓦）の需要減少とともに、「J形役瓦」の一種「のし瓦」を生産していた既存の本社工場第2ラインの稼働率は年々低下し、稼働率を高めるための施策を必要としておりました。

上記の課題を解決するため、既存の本社工場第2ラインを、「J形役瓦」・「F形役瓦」とともに生産できる、「複数品種・オートメーション型」の和洋役瓦兼用生産設備として改修する計画を進めることといたしました。

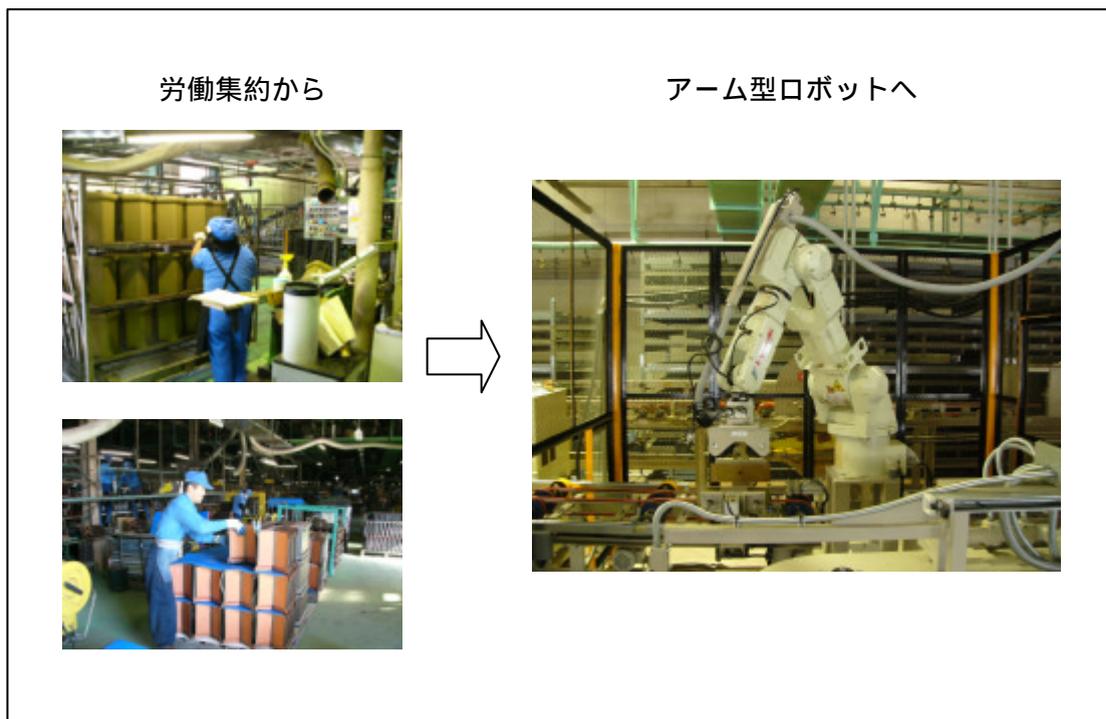
2. 本社工場第2ライン改修後の供給体制への影響と特長

- 1) 「F形役瓦」の全社生産能力増強（F形役瓦60%増）。
- 2) 「J形役瓦」・「F形役瓦」の複数品種生産ラインとなったことにより、需要動向に合わせた柔軟な供給体制を敷くことが可能となるとともに稼働率が向上。
- 3) これまでの労働集約型工場のみにおける「F形役瓦」生産体制に、少人数制・オートメーション型の工場も加わり、生産性が向上。
- 4) 「F形役瓦」の生産能力増強により、「F形棧瓦」の生産能力とのバランスを図ることができ、販売における「棧瓦」・「役瓦」のバランスに合わせた、ムダのない生産体制が可能となる。
- 5) オートメーション型工場における、形状の異なる複数品種の生産を可能にするため、アーム型ロボット5基（業界初）を搭載。
- 6) 本社で2番目に古い工場であったが、今回の改修により、画期的な設備を備えた、次世代モデルラインに変貌を遂げた。

3. 設備改修概要

- 1) 改修着工： 平成17年8月
- 2) 改修完工： 平成17年11月(初期建設工事は昭和58年9月)
- 3) 設備投資額： 357百万円
- 4) 資金調達方法： 公募増資及び自己資金
- 5) 人員： 5名/シフト+日勤2名
- 6) 設備改修内容： 成形～乾燥～施ゆう～焼成～梱包、各工程に係る設備
アーム型ロボットの設置(5基)

4. アーム型ロボット



以上